

山口情報芸術センター [YCAM] : 企画展



# Semitra Exhibition 「tFont/fTime (ティーフォント・エフタイム)」

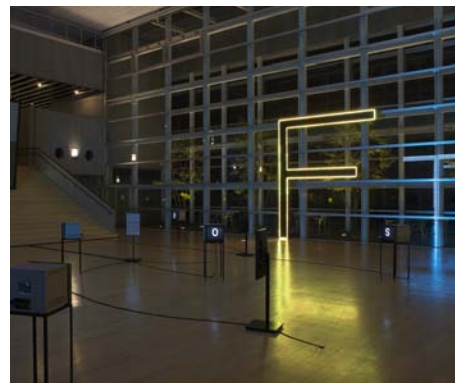
## セミトラ インスタレーション展

2009年9月19日(土) - 2010年1月10日(日) 10:00-19:00

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB、ホワイエ、2Fギャラリー、中央公園ほか 入場無料

卓越したメディア感性と技術を発揮するクリエイター集団「セミトラ」、初の個展。  
「フォントにおける時間」をテーマに、YCAMの展示空間+WEBで作品を展開します。

2003年の設立以来、ウェブデザインから、グラフィックス、インタラクティブデザインまで、メディアテクノロジーの最新形とデザインの領域をクロスオーバーさせるクリエイター集団「Semitransparent Design (セミトランスペアレントデザイン)」。YCAMでは、ここから生まれたアートユニット「Semitra (セミトラ)」による初の個展「tFont/fTime (ティーフォント・エフタイム)」を開催します。



### 文字×時間のデザイン

つねに変化し続けるフォント、  
その姿をインスタレーションとウェブサイトで見発見する

本展では、フォント(文字書体)デザインに着目し、時間によってフォントが変容していくユニークなアイデアの新作を発表します。時間をもったフォント「tFont」とフォントをもった時間軸「fTime」による新作インスタレーション4作品(スタジオB)を中心に、それらをネットワークや映像中継によって加工/創作するフォントデザインのアイデアもご覧いただくことができます。さらに、会期中にはYCAMを彩る大型サインが館内・外に出現します。「文字×時間のデザイン」が、YCAMのところどころに遍在し、現実空間と情報空間のリンクを介して、会期中、常に変化し続けるフォントスケープ(文字風景)を展開します。

展覧会公式ウェブサイト <http://semitra.ycam.jp/>

■内覧会 2009年9月19日(土) 11:00-12:00

※9月19日(土)は、12:00より展覧会を一般公開いたします。

休館日: 火曜日(祝日の場合は翌日)

12月29日(火)-1月3日(日) 年末年始のため全館休館

※10月26日(月)-11月6日(金)は、展覧会のみ臨時閉場いたします。

主催: 財団法人山口市文化振興財団、文化庁、  
やまぐち地域文化芸術振興プラン実行委員会  
後援: 山口市、山口市教育委員会  
協賛: カラーキネティクス・ジャパン株式会社  
技術協力: YCAM InterLab  
企画制作: 山口情報芸術センター [YCAM]  
キュレーター: 阿部一直 (YCAM)  
文化庁「地域文化芸術振興プラン」プロジェクト

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は下記までご連絡ください。

お問い合わせ 広報担当: 廣田、辰村  
〒753-0075 山口県山口市中園町7-7 TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216  
e-mail: [information@ycam.jp](mailto:information@ycam.jp) <http://www.ycam.jp/>



山口情報芸術センター  
Yamaguchi Center for Arts and Media

## ウェブサイトで展示会場を見ながら、作品に参加

## YCAM 館内・外 12カ所と、ウェブサイトから楽しめる展覧会。

「tFont/fTime」とは、「時間フォント／フォント時間」をあらわし、フォントが時間によって変化していくプロセスを視覚化する新しい発想から、文字デザインを探求するところみです。

特設ウェブサイト／専用アドレスからメッセージを投稿すると、その文字は、作品へと展開され、YCAMの展示会場に出現します。オリジナルフォント「tFont」として表示されるほか、時間軸「fTime」となって、鑑賞者のアクションや、カメラ、モニタといったメディアを通すことで、そのメッセージが加工されていきます。さらに、ウェブサイトからも、中継映像を見ることができ、会場でのフォントの変容を、文字の風景として体感することができます。YCAMのスタジオBでは、4作品の新作インスタレーション、さらに、ホワイエや中央公園など、館内・外合計12カ所では、それらをフォントスケープ（文字風景）として展開した作品を楽しむことができます。それぞれの展示作品は、鑑賞者のアクションやメッセージの投稿などのデータを共有しており、それらはフォントの形状や照明の色彩として、様々な作品に影響していきます。

※tFont（時間フォント）=時間をもったフォント fTime（フォント時間）=フォントをもった時間軸

特設ウェブサイト <http://semitra.ycam.jp/>  
作品ウェブサイト <http://www.semitraexhibition.com/>  
専用アドレス [m@semitraexhibition.com](mailto:m@semitraexhibition.com)

## Semitra（セミトラ）

ネットワークとリアルスペースを連動した独自のデザイン手法を開拓し、カンヌ国際広告祭、クリオ賞、One Show、New York ADC、D&ADなどの広告賞を多数受賞しているクリエイター集団「Semitransparent Design」（メンバー：田中良治、菅井俊之、柴田祐介、佐藤寛、萩原俊矢、柏木恵美子）から生まれたアートユニット。ビジュアル、プログラム、ネットワーク技術を駆使して、ウェブ、インスタレーション、写真、映像など、メディアの形態を選ばず多岐に渡るアイデアの作品を発表している。主な活動として2008年、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] にて自ら開発した時間軸をもったフォント「tFont」を使ったインスタレーション「フラッシュを使用しない撮影は許可されています。」や同じく「tFont」を使った岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー [IAMAS] でのワークショップ、「映像作家100人2009」（ビー・エヌ・エヌ新社）への映像提供などがある。

<http://www.semitransparentdesign.com/>

「tFont」は2次元であるフォントに時間軸を加えたものです。

一見でたらめな光の点滅に見える映像は、文字の軌跡を描画しており、シャッタースピードを落としたカメラなどで撮影することによって初めて読むことができます。

このフォントのオリジナルは動的で読めない光の点滅であり、可読を獲得するためには写真を撮るなどの加工が加えられることになります。つまり「tFont」は他者によって加工／変形されることが前提に設計されたフォントです。そして、この加工／変形によって伝播していくウェブ的な文化に、ウェブクリエイティブの可能性を感じています。

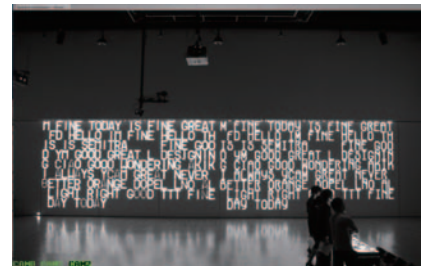
田中良治（セミトラ）

### “tFont/fTime” 作品一覧（新作／YCAM委嘱作品）

- \* サーバーによって文字の形状（劣化）の情報が共有され、連動している作品
- \* 01. Movable Type（スタジオB）ネット中継あり
- \* 02. Typesetting（スタジオB）\* ネット中継あり／メッセージ表示
- \* 03. California Job Case（スタジオB）\* ネット中継あり
- \* 04. No Flash Photography Allowed（スタジオB）  
ネット中継あり／メッセージ表示
- \* 05. LCD/CRT（ホワイエ）
- \* 06. No Flash Photography Allowed プロジェクション  
（ホワイエ）
- 07. 巨大サイン LED（ホワイエ）メッセージ投稿により変化
- 08. 巨大サイン 立体彫刻（中央公園）
- 09. 「tFont」写真展示（2階ギャラリー）
- \* 10. スタジオB中継映像プロジェクション  
（2Fエレベーター横）
- 11. Semitransparent Designドキュメント映像展示  
（BIT THINGS）
- 12. 操作用コンピュータ（BIT THINGS）ネット中継表示



作品ウェブサイト <http://www.semitraexhibition.com/>



作品ウェブサイト 中継画面

（作品01-03の3作品の様子を、ウェブサイトから閲覧することができる）



山口情報芸術センター [YCAM] の情報スペースデザイン（2003）



01

## 主な展示作品

### 01. Movable Type (ムーバブル・タイプ／活字)

#### 音楽のように再生するフォント

会場に並んだ6台のターンテーブル。レコードを再生すると、前面に位置するスクリーンには、アルファベットが順番に表示されます。鑑賞者は、ターンテーブルを操作し、スクラッチなどのDJテクニックを利用しながら、文字の形状に変化(歪み)を加え、その様子を映像と音で楽しむことができます。時間の方向を操ることで、音楽や動画のように時間軸上で再生されるフォントデザインが展開されるのです。

また一方で、展覧会の開館から閉館までの間、文字は再生が繰り返されることによって、次第に劣化していきます。ターンテーブルの再生と操作によって、身体と文字とが瞬間的に関係する「歪み」、そしてサーバーによるもうひとつの時間軸が生む「劣化」。本作では、鑑賞者によって操作される実時間とメディアがもたらす時間とが重なり、複合的な時間軸の姿が新たなフォントスケープとして立ち現れます。



02

### 02. Typesetting (タイプセッティング／組版)

#### ウェブサイトに投稿されたメッセージが、「tFont」となって見えてくる

特設ウェブサイトや専用のアドレスに投稿されたメッセージが、作品「Movable Type」(01)で生成されたフォントによって、次々と表示されます。つまり、ウェブサイトにおける投稿の時間と、会場で更新されるフォントの劣化情報が完全に同期することで、参加者の言葉が姿をあらわすのです。この様子は、ライブ映像として、ウェブサイトでも配信されており、投稿した参加者も、会場での劣化の変容プロセスを見ることができます。会場とウェブサイト、鑑賞者と参加者とのあいだを同期する時間、さらに表現において使用されるメディアがもたらす時間とが重なり、変容し続けるフォント。それは、ネット社会特有の時間のあり方、そして不特定のユーザー間を移行するメッセージの姿ともいえます。

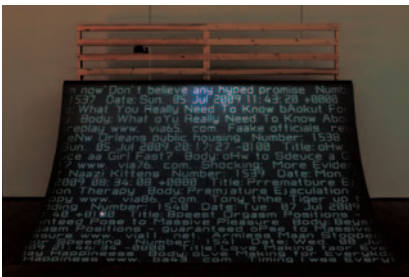


03

### 03. California Job Case (カリフォルニア・ジョブ・ケース／組版箱)

#### オリジナルフォント「tFont」の変容プロセスを一望する

アルファベットと数字(A-Z, 0-9)の一覧が表示されたこの作品は、フォントの劣化していくプロセスを一望できるものです。鑑賞者は、ターンテーブルで再生速度を変化させながら、時間軸が多層に重なり、刻々と変化するフォントの様子を楽しむことができます。「tFont」のフォントサンプルとでもいうような一覧は、66種類の文字が、時間とともに個性を際立たせたフォントへと変容する姿を映し出します。



04

### 04. No Flash Photography Allowed (ノー・フラッシュ・フォトグラフィー・アラウド／フラッシュを使用しない撮影は許可されています)

#### カメラで撮影することで、初めて見えるメッセージ

点滅する大量の光の粒が映し出されたスクリーン。これは、本展の特設ウェブサイトや専用のアドレスに投稿されたメッセージを、オリジナルフォント「tFont」によって表示したものです。鑑賞者は、この流れる光＝アニメーションを、カメラで撮影し、時間の操作を加えることではじめて解読することができます。私たちの視覚には点滅にしか見えない情報は、カメラのもつ肉眼とは異なる露光時間(シャッタースピード)によって文字として可視化され、言葉として浮かび上がります。他者による加工(撮影)＝2次創作によって発揮されるクリエイティビティやコミュニケーション。それは、都市を舞台として新しい風景を創出するスケーターカルチャーやストリートセンスにあるオルタナティブな創造性ともいえます。セミトラは、そこから、ウェブデザインにある新しい知覚と速度を読み取っています。



05

### 05. LCD/CRT (エルシーディー・シーアールティー)

#### メディアを通じて、表情を変えるフォントを体感

液晶モニター(LCD)とブラウン管(CRT)計10台を配置し、「fTime」によるフォントの姿をあらわしたインスタレーション。展覧会場とインターネット経由で更新される「fTime」から、フォント1文字のみを抽出してランダムに切り替えたり、再生速度を変え、劣化のプロセスを表示した映像が、解像度や再現システムの異なるディスプレイに映し出されます。フォントと時間、そしてアウトプットメディアとの多様な関係性が、象徴的に表現されます。

07/08.

#### 本展のシンボル、立体彫刻とネオンサイン

本展のキーワード「T (time)」と「F (font)」の巨大サイン。ホワイトには、LED照明の光が動く「T」と「F」のオブジェ。その光は、ウェブサイトや携帯電話からメッセージが投稿される度に、色彩が変化します。そして、野外の中央公園には立体彫刻と、ベンチとして機能する巨大フォント「T」と「F」が設置されています。建物やYCAMを取り巻く環境に文字が溶け込み、日々の情景とともに変化していくフォントスケープを楽しめます。

12

#### メッセージを投稿し、会場の風景を中継する作品ウェブサイト

ウェブサイト <http://www.semitraexhibition.com/>

会期中は、この特設サイトから、いつでも会場にアクセスすることができます。メッセージを投稿し、フォントとしてどのように変容するのか、中継映像でご覧いただくことができます。



07



## 関連イベント

### オープニングトーク

#### アーティストトークで、フォントデザインの最前線に触れる

出展作品についてアーティスト自身が語るトークイベント。ゲストには、ウェブデザイン、インターフェースデザインで注目されるデザインスタジオ「tha ltd.」の中村勇吾と阿部洋介両氏をむかえます。

9月19日(土) 15:00-17:00 入場無料

出演: Semitra ゲスト: 中村勇吾 (tha)、阿部洋介 (tha)

モデレータ: 阿部一直 (YCAM)、会田大也 (YCAM)

#### 中村勇吾 Yugo Nakamura

1970年奈良県生まれ。ウェブデザイナー／インターフェースデザイナー／映像ディレクター。東京大学大学院工学部卒業。多摩美術大学客員教授。1998年よりインタラクティブデザインの分野に携わる。2004年にデザインスタジオ「tha ltd.」を設立。以後、数多くのウェブサイトや映像のアートディレクション・デザイン・プログラミングの分野で横断／縦断的に活動を続けている。主な受賞に、カンヌ国際広告賞グランプリ、東京インタラクティブアワードグランプリ、TDC賞グランプリ、毎日デザイン賞など。

#### 阿部洋介 Yosuke Abe

1973年東京生まれ。武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。株式会社ビジネス・アーキテクツを経て、2007年「tha ltd.」に参加。ウェブサイトや映像のアートディレクションのほか、FFFOUND!などのサービスのディレクションも。主な受賞に、カンヌ国際広告賞金賞、東京インタラクティブアワード金賞など。

### ギャラリーツアー

#### 専門スタッフとともに巡る大好評のイベント

YCAMのスタッフとともに作品を体験しながら、展覧会の鑑賞ポイントを発見することができます。

10月3日(土)、4日(日)、10日(土)、11日(日)、17日(土)、18日(日)、24日(土)、25日(日)

11月22日(日)

12月6日(日)、12日(土)、13日(日)、26日(土)、27日(日)

1月9日(土)、10日(日)

14:00-15:00 (開催期間中／全16回)

#### 参加無料

※各日開催までにYCAM1Fチケットインフォメーションまでお申し込みください。

### YCAM 教育普及オリジナルワークショップ

#### 「typo DJ (タイポ ディージェー)」

本展の作品を使用し、「映像+音楽」を操るDJを体験! DJテクニックを学びながら、指先で思いのままにレコードを操作し、時間とフォントによる新しいデザインアイデアを体感することができます。

11月28日(土) 13:00-17:00、29日(日) 10:00-16:00 (2日間通し)

講師: HIFANA

対象: 小学校4年生～中学校3年生

料金: 500円 定員: 12名 (先着順)

#### HIFANA (ハイファナ)

KEIZO と ジューシーの2人による音楽ユニット。1998年結成。

電子楽器や打楽器、ターンテーブルのスクラッチなどでリズムを刻み、オリジナリティあふれるライブパフォーマンスで知られる。

ハイファナとは沖縄の言葉で「南の風」。

#### 成果発表+デモンストレーション

2日間のワークショップによる成果 (ライブパフォーマンス) 発表と、講師であるHIFANAのデモ演奏をおこないます。

成果発表とデモンストレーションについては、どなたでもご覧いただくことができます。

11月29日(日) 15:00-16:00

入場無料 定員: 50名 [要申込 (空きがあれば当日見学も可)]

#### ワークショップ／成果発表+デモンストレーション申込方法

はがき・FAX・e-mailにて、参加ご希望のイベント名をご記入の上、住所、氏名(ふりがな)、性別、生年月日(保険適用のため)、電話番号・e-mail等連絡先とともに、下記へお申し込みください。

〒753-0075 山口市中園町7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216

e-mail: workshop09@ycam.jp



## 山口情報芸術センター Yamaguchi Center for Arts and Media

[開館時間] 10:00-20:00 (夜間イベントのある日は22時まで開館)

[休館日] 火曜日 (祝日の場合は翌日) / 年末年始 (12/29-1/3)

〒753-0075 山口県山口市中園町7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216

e-mail: information@ycam.jp http://www.ycam.jp/

